令和８年１０月１５日

学校法人貝畑学園

学校関係者評価委員会報告書

開催日時：令和８年８月２０日（木）　　１３：３０ ～ １５：００

会　　場：岡山ビジネスカレッジ　田町キャンパス　２階会議室

出 席 委 員 一 覧 ：

企業名等	役職名	氏　名
株式会社アコービューティック	代表取締役社長	穐山　晃治
株式会社ティアラ	代表取締役社長	磯島　貴史
河合内科西口クリニック	院長	河合　洋二郎
株式会社カイタックホールディングス	人事部 ゼネラルマネージャー	川尻　のりみ （代理）加賀　正稔
山陽事務機株式会社	営業部次長	杉井　正治
内部委員	副校長	角　　一秀
〃	副校長	松井　隆
〃	総務部長	長﨑　哲也

議　　事

・職業実践専門課程、認定状況の報告、
・自己点検・評価報告書を基に、項目の説明および評価
・認定日本語教育機関の認定申請に関する報告

基準１　教育理念・目的・人材育成像等

項　目	評価
1-1-1. 教育理念・目標が明確に示されているか	5
1-1-2. 教育理念・目標を実現するための計画・方法を持っているか	4
1-1-3. 教育理念・目標は、適宜見直されているか	4
1-1-4. 教育理念・目標は、教職員学生、また学外に公表されているか	5
1-2-5. 学校の特色として挙げられるものがあるか	4

1-3-6. 学校の将来構想を描き、先を見据えた中期的構想を抱いているか	4

評価　５．完璧　４．かなり進んでいる　３．普通　２．やや足りない　１．進んでいない

１－１　理念・目的・人材育成像は定められているか

本学園の理念、教育方針は創立以来一貫して示している。

学則、パンフレット、ホームページへの記載、掲載により、教職員及び学生、保護者にも周知し、理解を得ている。また、ミーティングを定期的に開催し、共通認識のもと改善に取り組んでいる。そして、年度ごとに重点目標を定めて進めている。

１－２　学校の特色はなにか

専門教育・社会人基礎教育・現場教育からなる実践教育と失敗を恐れずチャレンジする諦めない姿勢を育む教育で業界から求められる新人即戦力を目指すカリキュラムを構築する。幅広い業界のプロフェッショナルを養成する総合学園である。

１－３　学校の将来構想を抱いているか

少子化、経済危機等により、教育機関を取り巻く環境は厳しい。中期的な構想は確立しているが、各種会議の定期的な開催により、方針を随時検討、変更を行っている。

（教育理念）

１．時代の変化に対応する知識・技術を追求する

２．職業人としての教養と人格を高める

３．豊かな人間性を培い国際的視野を養う

（教育目標）

１　急変する時代を先導する、高度な専門知識と応用自在な技術を体得する

２　広い視野と良識を備え、他者と共鳴する豊かな人間性を育む

３　自己の専門性を社会に証明するため、高度な職業資格の取得を完遂する

４　品格ある立ち居振る舞いと、真の信頼を築く対話能力を錬成する

５　異文化への深い理解に基づき、世界を舞台に活躍する国際人を育成する

６　自らを律する強い意志を持ち、天賦の才を最大限に伸長させる

７　生涯の糧となる、果敢な挑戦心と最後まで諦めない姿勢を養う

（重点目標）

○　学生自身の学習意欲を喚起し、自己実現を促す教育指導の徹底

○　教職員の共通認識の形成と組織的機動力の強化

○　教職員の専門的知見の深化と教育者としての資質向上

○　産学連携の深化による実践的職業教育の推進

○　特記事項

昨年も、社会人としての力を育てることを目標に掲げ、学生指導にあたり、面談実施を強化、教職員間での情報共有する機会を増やしたり、検定取得目標等についても学科目標だけではなく、学生ごとに目標設定をしたりとより細かな対応を行ってきている。 今年度も、校長交代に伴う教育目標文言の差し替え・改定を行い、より良い結果が残せるよう引き続きた取り組みを行っている。

基準２．学校運営

項　目	評価
2-4-1. 学校の目的、目標に基づき、学校運営方針は明確に定めているか	4
2-4-2. 学校運営方針はきちんと教職員に明示され、伝わっているか	4
2-4-3. 学校運営方針を基に、各種諸規定が整備されているか	4
2-5-4. 学校の目的、目標を達成するための事業計画が定められているか	4
2-5-5. 学校は事業計画に沿って運営されているか	4
2-6-6. 運営組織図はあるか	5
2-6-7. 運営組織や意思決定機能は、学校の目的、目標を達成するための効率的なものになっているか	4
2-6-8. 組織の構成員それぞれの職務分掌と責任が明確になっているか	4
2-7-9. 学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか	4
2-7-10. 人事考課制度は整備されているか	4
2-7-11. 昇進・昇格制度は整備されているか	4
2-7-12. 賃金制度は整備されているか	5
2-7-13. 採用制度は整備されているか	3
2-7-14. 教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか	4
2-8-15. 意思決定システムは確立されているか	4
2-8-16. 意思決定プロセスのポイントとなる仕組み（会議等）が制度化されているか	4
2-8-17. 意思決定の階層・権限等は明確か、学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか	4
2-9-18. 業務効率化を図る情報システム化がなされているか	3

２－４　運営方針は定められているか

運営方針を明確にして、全体会議および全体講師会で周知徹底している。また、毎月の学科主任会議、日々の朝礼での連絡および学校システム導入により、個々のスケジュールの把握等により情報の共有化を行い、方針を伝えている。就業規則、給与規定に加え、個別の案件についてはマニュアルを制定している。

２－５　事業計画は定められているか

年度別に経営計画、事業計画を定めており、決算により的確に実施運営している。学科ごとに半期サイクルの計画をプラスし、より具体的にしていくことが必要である。

２－６　運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか

明確な組織を策定し、理事会のもと、総務、教務、企画広報、学生支援などの目的に合わせた組織体系としており、各部門長に責任と権限を持たせている。

２－７　人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか

専門分野に対応した人材を確保し、能力主義に基づく人事評価を行っている。専門分野のため、昇進にそぐわないケースもあり、期末賞与等での評価が主体となっている。また、人事制度、賃金制度は就業規則により明文化している。採用についても基準は設けているが分野別の採用のため、一律の運用はできていない。教職員数は、学生数、クラス数に基づく計画を立てている。人事等の特性として専門分野に分かれているため、配置転換が出来にくくなっている。また、企業型の昇給制度はなじまないため、目標管理シートを活用することにより、専門職として賞与、技術手当等の処遇で能力主義を反映している。

２－８　意思決定システムは確立されているか

意思決定システムは、基本方針に基づき体系的に、より具体化していくプロセスを組んでい

る。会議については各会議の役割を明確にし、週１回実施の会議において検討課題を設定し、また、対策を立案している。

２－９　情報システム化等による業務の効率化が図られているか

2026 年 4 月より新しい校務システム「infoclipper」を導入し、学生情報、出欠、成績等の管理業務の効率化を進めている。これにより、教職員間での情報共有の迅速化や、各種データの一元管理による業務負担の軽減を図っている。

また、Google Workspace を活用した情報・資料共有、スケジュール管理、授業関連情報の共有、アンケート作成等のデジタル化を推進するとともに、生成 AI の活用についても校内で検討・実践を進めている。今後も、校務システム、クラウドツール、生成 AI を効果的に活用し、教職員の業務効率化と学生支援の質の向上につなげていく。

○　特記事項

教育活動状況について、ご理解をいただいた。

基準３．教育活動

項　目	評価
3-10-1. 各学科の教育目標、人材育成像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	4
3-11-2. 各学科の教育目標、人材育成像を構成する知識、技術、人間性等は業界の人材ニーズレベルに照らしてまた学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして明確に定められているか	3
3-12-3. 学科のカリキュラムは、目標達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成されているか	4
3-12-4. カリキュラムは、業界など外部者の意見を反映しているか	5
3-12-5. カリキュラムを編成する体制は明確になっているか	3
3-12-6. カリキュラムは、定期的に見直しているか	5
3-13-7. 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	4
3-13-8. 各科目の指導内容、方法等を示したシラバスが作成されているか	4
3-13-9. 各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか	4
3-14-10. 学生による授業評価を実施しているか	4
3-14-11. 授業内容の設計や授業法等の現状について、その適否につき学科や学校として把握・評価する体制があるか	3
3-15-12. 学科の育成目標に向け授業を行うことができる要件（専門性・人間性・教授力・必要資格等）を備えた教員を確保しているか	4
3-15-13. 教員の専門性レベルは、業界レベルに十分対応しているか	4
3-15-14. 教員の専門性を適宜把握し、評価しているか	4
3-15-15. 教員の専門性を向上させる研修を行っているか	4
3-15-16. 教員の教授力（インストラクションスキル）を適宜把握し、評価しているか	3
3-15-17. 教員の教授力（インストラクションスキル）を向上させる研修を行っているか	4
3-15-18. 教員間（非常勤講師も含めて）で適切に協業しているか	4
3-15-19. 非常勤講師間で適切に協業しているか	2
3-15-20. 非常勤講師の採用基準は明確か	3
3-16-21. 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
3-16-22. 他の高等教育機関との間の単位互換に関する明確な基準があるか	ＮＡ
3-17-23. 目標とする資格はカリキュラムの上で明確に定められているか	4
3-17-24. 目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっているか	4

３－１０　各学科の教育目標、人材育成像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか

卒業生の就職先、関連企業、インターンシップ先などにヒアリングを行い、求められる教育内容を把握、見直しを図っている。

３－１１　各学科の教育目標、人材育成像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか

カリキュラム作成の際に目標設定を行っている。新技術、新資格などへの対応は若干遅れ気味となっているが、積極的に対応するようにしている。

３－１２　カリキュラムは体系的に編成されているか

目標に合わせたカリキュラムの作成に取り組んでおり、就職先などの外部の意見も取り入れ、専門学校として求められる人材育成に沿ったものにしている。カリキュラム作成は、学科単位で行っているため、他学科との調整が不十分なことがある。カリキュラムの見直しは毎年行っている。

３－１３　学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか

専門科目と一般科目とのバランスを取りながら進めている。シラバスは、各科目の一コマ若しくは週単位で作成し、授業概要・授業方法、到達目標、授業計画・内容、評価方法等を示している。

３－１４　授業評価の実施・評価体制はあるか

学生による科目・講師毎のアンケートを実施し授業評価を行っている。評価結果について適宜、講師にフィードバックしている。

３－１５　育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

専門分野に応じた経験と資格と技術を備えた教員を採用確保している。非常勤講師を含めた勉強会を実施している。非常勤講師についても、必要な技術と資格に基づき採用している。また、普段より非常勤講師とのコミュニケーションを図り、年数回の学科ミーティングを実施することで、より細やかな情報共有を図っている。

３－１６　成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

基準を明確に定め、出席率、課題提出、検定取得等による総合評価としている。出席率は基準をクリアできないと、進級・卒業できなくなる。

３－１７　資格取得の指導体制はあるか

学科により進級・卒業の要件としており、目標資格を設定し、授業の中に試験対策を組み込んでいる。また、フォローアップ授業を行うことで、知識・技術の向上を図っている。

○　特記事項

教育活動状況について、ご理解をいただいた。

基準４．教育成果

項　目	評価
4-18-1. 就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか	4
4-18-2. 就職成果とその推移に関する情報を明確に把握しているか	4

4-19-3. 資格取得率の向上が図られているか	4
4-19-4. 資格取得者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	4
4-20-5. 退学率の低減が図られているか	4
4-20-6. 入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	4
4-21-7. 卒業生・在校生の社会的活躍及び評価を把握しているか	3
4-21-8. 卒業生の例として特筆すべきものを記述できるか	3
4-21-9. 在校生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価されたか	5
4-21-10. 在学生や卒業生の作品や発表が、外部コンテスト等で評価された例として特筆すべきものを記述できるか	5

４－１８　就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか

就職活動の推移に関する情報は、システム化し個別の活動状況、内定先等把握できるようにしている。学校全体としては高い就職内定率を維持できている。

４－１９　資格取得率の向上が図られているか

資格取得状況は、システム化し個別に把握しており、目標資格に対しての取得はできている。

４－２０　退学率の低減が図られているか

退学率5%以下を目標に、担任による定期面談、チームビルディング研修、学生ストレスチェック、スクールカウンセラーとの連携を実施している。退学率については年度ごと・学科ごとに確認し、退学者数や退学理由の分析を行っている。直近年度においては、退学率が目標値である5%以下、またはそれに近い水準で推移しており一定の効果が見られる。今後も課題のある学科への個別対応を強化し、さらなる退学率の低減を図っていく。

４－２１　卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

在校生の、コンテスト出場、入賞等の情報は把握できている。

○　特記事項

退学率についてＯＢＣは、一昨年５．６％、昨年４．８％、と減少、留学生の学科（ＩＣ・ＪＰ）は中途での進学者が多いため、除いて計算。ＯＢＭは、一昨年６．６％、昨年９．２％と増加しているのが現状。両校とも５％以下を目標に対応している。要因の一つとして精神的に厳しい学生の比率も年々高くなっている現状もあり、今後の動向の判断ができにくい状況になっている。

就職率につきましては、３月末時点で、ＯＢＣ　一昨年９８．４％、昨年９９．２％、ＯＢＭ　一昨年９９．０％、昨年１００％で、今後も就職サポートに力を入れていく。

その他の教育成果として、パティシエ学科における西日本洋菓子コンテスト銀賞受賞および全国大会出場をはじめ、ファッション学科やeスポーツビジネス学科での世界大会への日本代表選出など、外部コンテストにおいて顕著な実績を収めている。

基準５．学生支援

項　目	評価
5-22-1. 学生の就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4
5-22-2. 就職に関する説明会を実施しているか	4
5-22-3. 就職に関する学生個別相談を実施しているか	4
5-22-4. 就職の具体的活動（履歴書の書き方など）に関する指導を実施しているか	4
5-23-5. 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4
5-23-6. 学生相談室を開設しているか	4

5-23-7. 学生からの相談に応じる専用カウンセラーがいるか	4
5-23-8. 留学生に対する学生相談体制は整備され、有効に機能しているか	4
5-24-9. 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか	4
5-24-10. 奨学金制度が整備され、機能しているか	4
5-24-11. 学費の分納制度等、学生を経済的に支援する制度が整備され、有効に機能しているか	4
5-25-12. 定期的に健康診断を行うなど学生の健康面への支援体制はあるか	4
5-25-13. 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか	3
5-25-14. 学生からの健康相談等に専門に応じる医師・看護師等がいるか	ＮＡ
5-26-15. スポーツ等のクラブ活動、ボランティア活動その他、課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか	3
5-27-16. 遠隔地出身者のための学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	3
5-28-17. 保護者と適切に連携しているか	4
5-29-18. 同窓会が組織化され、活発な活動をしているか	3
5-29-19. 卒業生をフォローアップする体制が整備され、有効に機能しているか	2

５－２２　就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか

各学科担当教員とキャリアセンターが連携し、キャリア教育や個別指導を行っている。担当部門では、あらたな試みとして業界別の企業説明会を試験的に実施しており、今後実施業界を拡大してく計画である。また、現状のキャリア支援をゼロから見直し、各学科へのヒアリングを強化し、学科毎の必要な支援を見極め、効率的かつ効果的な対応を行っていく。

５－２３　学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか

学内システムに相談窓口を設けており、NPO 法人の支援機関と連携してカウンセリングが行える体制を整えている。

留学生については、中国語・ベトナム語・英語・ネパール語・ベンガル語など多言語に対応可能な職員を配置し対応している。

５－２４　学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか

学生支援機構の奨学金説明会および斡旋を行っている。特待生制度を実施しており、機能している。分納については、希望者ほぼ全員に実施している。

５－２５　学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか

健康診断は、各学年で定期的（各学年の春・一部の留学生は秋）に実施している。

５－２６　課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか

認定したクラブには活動費の補助を実施し、ボランティアについても学校として積極的に支援している。

５－２７　学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか

留学生については入寮可能な施設を所有している。また、業者との連携により下宿の斡旋を行っている。

５－２８　保護者と適切に連携しているか

定期的に文書による出席率、成績等の連絡、必要時に担任からの電話連絡、保護者との面談実施している。今後は ICT を活用したご家庭等との連携システムの構築を目指している。

５－２９　卒業生への支援体制はあるか

同窓会の組織再編を行い、活動内容を見直し強化を図っている。昨年度、同窓会会報の発送と、ホームページ内に専用ページを作成した。

○　特記事項

学生支援では、退学率5%以下を目標に、友人関係や授業不適応などの離脱要因への対策を強化している。新入生向けには外部業者によるチームビルディング研修を導入し、年 2 回のストレスチェックとカウンセラー等による個別面談でメンタルケアを行っている。

基準６．教育環境

項　目	評価
6-30-1. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	4
6-30-2. 施設・設備のメンテナンス体制が整備され、有効に機能しているか	4
6-30-3. 施設・設備の更新に関する計画を立て、計画通りに更新しているか	4
6-31-4. 学外実習、インターンシップ、海外研修等について外部の関係機関と連携し、十分な教育体制を整備しているか	4
6-31-5. 学外実習、インターンシップ、海外研修について、その実績を把握し教育効果を確認しているか	4
6-32-6. 防災に対する体制は整備され、有効に機能しているか	3
6-32-7. 災害を起こす可能性のある設備・機器等の情報は十分に伝えられているか	4
6-32-8. 実習時等の事故防止の体制は十分か	3
6-32-9. 万が一の災害が起きた場合に備えた保険等の処置は十分なものとなっているか	4
6-32-10. 防災訓練を実施しているか	4

６－３０　施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか

生徒数に対応した、施設、設備は常に整備しており、メンテナンスも必要に応じて迅速に行っている。また、Google Work Space を導入し、ＩＣＴ教育の環境整備も進めている。減価償却は適切に行い更新計画も立て実施している。

６－３１　学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

学科により状況は異なるが、学外学習やインターンシップについては、積極的な実施を目指して、各業界と連携を取り実施している。多くの学科は国内研修だが、ビューティ、ファッション系については、世界のポップカルチャーをリードする韓国での研修を計画している。

６－３２　防災に対する体制は整備されているか

防災への体制を整備しており、定期的な防災検査、講師による訓練を実施している。学生を含めた訓練は本年度実施していない。保険については、校外活動についても対象のものに加入している。

○　特記事項

学生の募集と受け入れについて、ご理解をいただいた。

基準７．学生の募集と受け入れ

項　目	評価
7-33-1. 学生募集活動は、適正に行われているか	4
7-33-2. 学校案内等は、志望者・保護者等の立場に立った分かり易いものとなっているか	4
7-33-3. 志望者等の問い合わせ・相談に対応する体制があるか	4
7-33-4. 募集定員を満たす募集活動となっているか	3

7-34-5. 学生募集において、就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍等の教育成果は正確に伝えられているか	4
7-34-6. 卒業生の活躍の教育成果が学生募集に貢献したかどうか正しく認識する根拠を持っているか	3
7-35-7. 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	5
7-35-8. 入学選考に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	4
7-36-9. 学納金は、教育内容、学生および保護者の負担感等を考慮し妥当なものとなっているか	4
7-36-10. 学納金に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	4

７－３３　学生募集活動は、適正に行われているか

適正かつ積極的に行っており、パンフレット、WEB サイト等で志望者の知りたい内容を的確に記載している。問合せには専門の職員が対応しており、フリーダイヤル、ホームページ、ＳＮＳ等も利用している。定員充足状況については、学科によっては十分とはいえない。

７－３４　学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

高校訪問時等の際、各種実績（就職状況・検定取得状況・コンテスト入賞状況・出席状況等）を提示している。また、ホームページ・ＳＮＳでも教育成果についての情報発信を行っている。プレスリリースを強化し、マスメディアを活用した学園認知活動も積極的に行っている。

７－３５　入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか

出願書類、面接等により公平かつ適正に実施している。

７－３６　学納金は妥当なものとなっているか

毎年検討を行い妥当な金額となっている。

○　特記事項

学生の募集と受け入れについて、ご理解をいただいた。

基準８．財務

項　目	評価
8-37-1. 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	5
8-37-2. 主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握しているか	5
8-38-3. 年度予算、中期計画は、目的・目標に照らして、有効かつ妥当なものとなっているか	5
8-38-4. 予算は計画に従って妥当に執行されているか	4
8-39-5. 財務について会計監査が適正におこなわれているか	5
8-39-6. 会計監査を受ける側・実施する側の責任体制、監査の実施スケジュールは妥当なものか	4
8-40-7. 私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか	5
8-40-8. 私立学校法における財務情報公開の形式は考えられているか	5

８－３７　中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

資産・財務内容は安定し、長期の経営に対する不安要素はなく、設備の更新等についても十分な対応が可能である。単年度での収支についても、均衡のとれた安定した状況である。田町キャンパスの建築、岡山駅西口キャンパスへの投資の借入金残が１億３千万円と予定通り返済している。今期に完済予定である。

８－３８　予算は妥当に執行されているか

計画に従い、実行している。

８－３８　予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

理事会、評議員会、監査などを通じて妥当な評価となっている。

８－３９　財務について会計監査が適正におこなわれているか

定期的に会計監査を受けており、適正であるとの報告を受けている。

８－４０　財務情報公開の体制整備はできているか

情報公開の体制整備はできている。貸借対照表・資金収支計算書・事業活動収支計算書をホームページへ掲載している。

○　特記事項

財務状況について、ご理解をいただいた。

基準９．法令等の遵守

項　目	評価
9-41-1. 法令や専修学校設置基準等が遵守され、適正な運営がなされているか	4
9-41-2. 法令や専修学校設置基準等の遵守に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	3
9-42-3. 志願者、学生や卒業生および教職員等学校が保有する個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
9-42-4. 個人情報に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	4
9-43-5. 自己点検・自己評価を定期的に実施し、問題点の改善に努めているか	3
9-43-6. 自己点検・自己評価に関する方針は確立されているか	4
9-43-7. 自己点検・自己評価に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	3
9-44-8. 自己点検・自己評価結果は公開しているか	4
9-44-9. 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は確立されているか	3
9-44-10. 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	3

９－４１　法令、設置基準の遵守と適正な運営がなされているか

関係法令及び関係省庁の指導等に従い、学校法人として信頼を受けるよう、積極的に法令遵守に努め、監督官庁への報告を適正に行っている。

９－４２　個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか

適正に管理し、運営している。データの学外への持ち出しは禁止している。また、パンフレット等への情報掲載時には個人別に確認をとっている。

９－４３　自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

実施している。問題点の改善にさらに努めていく。

９－４４　自己点検・自己評価の公開はしているか

ホームページへの公開をしている。

○　特記事項

法令等の遵守について、ご理解をいただいた。

基準１０．社会貢献

項　目	評価
10-45-1. 広く教育機関、企業・団体、および地域との連携・交流を図っているか	4
10-45-2. 学校の資源を活用し、生涯学習事業や附帯教育事業を行っているか	2
10-45-3. 学校の施設・設備を開放するなど地域社会と連携しているか	3
10-45-4. 諸外国の学校などと連携し、留学生の相互の受け入れ、共同研究・開発を行っているか	3
10-45-5. 重要な社会問題について、学生や教職員に対し啓蒙活動を行っているか	3
10-45-6. 学校として重要な社会問題に具体的に取り組んでいるか	2
10-46-7. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
10-46-8. 学生のボランティア活動の状況を把握しているか	3

１０－４５　学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか

岡山市、教育機関、地域団体等と教育連携協定を締結し、連携・交流を図っている。ｅスポーツビジネス学科では、教室の外部への貸出し、岡山市と連携した高齢者向けの ｅ スポーツイベントや地元商店街との産学連携イベントを実施している。また学科において SDGs に対する取り組みを強化している。特にファッション学科の取組は、マスコミにも広く取り上げられ注目されている。

１０－４６　学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

学校として参加するボランティア活動については奨励、支援しているが、学生個人での活動に関しては把握できていない状況である。

○　特記事項

社会貢献について、ご理解をいただいた。